

解危

全

2139
55



2132
55

郷食庭支庫

饗庭
藏書

序

北溟くはく小魚うを有り化ける名なと成な其名なを錦江きんぎょうと
いふ。おひ志しかふる森林田しんりんが芝居しばい不ふ得とく派はのを要よ。
行い翅つばさハ名なみ。於お夜よが明あつらう桌しやく哉や。
作しりの。童どう助すけといふ大お多ん年ねん。大坂下おおさかりの
名な多た哉や。あらせまめ古今こ今け三鳥さんのをん
からくく中ちゆう櫓ろのを右みぎ鼓つづみのを方かた了り御おん言ごんく
評判ひやうばんのを尻しり尾び了りさらりしてく慈あま心こころ者ものハ。

郷食庭支庫

頭より雪代の御蔭を蒙る。白鳳堂の
鵬賦に。お三蔵を飛と梅川の趣向よ
たより。註語本を書きといふ。まかせて書くと
物のこゝろ春こみ。鶯鳩の口よりおひき。
二日替りの二日能成。とりもたぬをさる
外懸て中居大入盃のハをん持かん。
されどもけし酔本性あつははははは
文句のはまりぐはははははははは

せりぬ附の心のものを正とてお目こ
かちぬ。丹波のげしより儲なし。
見つけハ晒屋本世界ハ狂言写夢
鶯鶯石より似たりたる。鶯のやうなる
化鳥を。書キ物外を。参考の法よ。白
わ多ひ系ハ本鬼曳の目川神引
笑ておられ

天明四三月

万葉歌年述





本舞臺より附二の口村を承の
乃具者に帝様とく紫氣
皆振出たのどく詠まをま
清るりましく所件あり

^{上り}たがひは親ももつ子とよきをばいをれぬ
世のきりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢり
身まうくごつらふたなきかいら

ト三人をまおすおまの肉

あまをさく人妻ある人
びりうりまある人

^{アキ}アキくあの人をさくたふおれりて
けうら及の小川をさくたりいぢり
ぬくれバごせ街及をやうく
一^林ごんくのおころろぎあがりごふ
今本んとそのこのよおやぢりあ
お教をちうり

トめんあつふらうをばふとす

一アいふこれくちよの川とでもうやうてふ

妙うんどの孫らがまぬうぬあふ

いさばさばとさうをさきうりく

一サアサアまハ

一あいふ人ささうだ

トむるのうさけきえとあ

子ゆのやこの目きりも平沙のう

き血の液

ト上りの肉は目うくしををむ

ありうるとあつと顔をつんを

思入あり

あづき親子の別まよふやまうこあぞ

やまかぬんのかうくられゆく

トいふ翁切ましく遠又と上り

切しるまをきうけぬあは流二人

とりもの形もくが

一人
一たきぬくくち

トおもく株とくをうーるふ

かたひんく

一まのくをひんく

おが

○おまはとうりくくとおがのち龍ようれ
 押合るうあふ老らうまやくちんまよあ男女たにまはたいそ
 おませう中本戸おませう新相の評判
 熱波者のひやうをアアんんおのーろろさ
 株ます徳ハくきい藤いを括くででござりごまをま侍しハハきぬき十じ圓げんの
 える爪十指ての申まひひささままふふたたれれがが同どうのの名なははくく
 ここののままをを義ぎ人にん大だい坂さかよりよりりりるる勢せいささひひををめめて
 春はる柱はしらのの入い高たかりりくくここざざるる是こゝ前まへとと人ひとおおままりり押おし

まい鞘さやが割割る割 [廿中] 徳次とくじの巻まきくかゝる美みの小こさで、
 能よッッと祢ねへ上方じやうほう風かぜの上うへつつまさまさ [フル] アイサアイサ後ごも上方じやうほう
 ちうでりちうでりそそううららーーううごござざりりややたたおおささんんおおつつと
 ちちううりりととおおひひろろいい [かむ] ささッッきき茶ちやううりりおおががああららううははを
 ちちううつつけけここううららををききつつめめととおおししくくいい ナイナイタタクク [きん]
 ううんんごごううのの強こゝろ辨べん小こ胃いをを折おせせばば茶ちや多たああんんぞぞ、
 赤あかちちややああららびびやや祢ねへへんん兵へい男なんおおととこのこのととびび
 がが今いまよよああららがが町まちのの大おほ纏むすががああららががせせててああんんででももはは

本山ほんさんののアアのの舞まやや島しまのの丸まるをを付つくく對たいののささややららせせ
 [元] じじううつつアアららととおお付つくくササアアははららうう茶ちやををそそららうういいニニス
 [茶] 良らののそそごごじじややららのの茶ちやややッッササ○○那な保ほのの中ちゆう小こ
 ううののききりりととああららののここううとと男おとこ、男武ぶ藏ざうのの羽は織お小こ
 花はな表えのの紋もん墨すみ河か小こ紋もんのの小こ袖そで、袖日ひききづづけけ胴たう丸まるささめめ鞘さやのの
 由ゆ太た刀たうををききめめにに所しよめめのの舟ふね名な松しょう本ほん屋やをを入いれれ [善] 丸まるをを
 おおととききんんととああらら又また茶ちや多たああんんががけけここううととああららをを明あかか
 陶たうがが脊せううととああららををききててああららのの松しょう本ほん屋や店てん丸まるささんんおおはは

なごりやーさらぬ梅川白くうらなみぐさあり
やート大小の仕つけである 志 去擋の久いせいが祭
梅川もあーいよ小言とでもサキせやせうおは
ひきサキあそどあよかから祢をうらめしめ
きうらぬりめーをまらち山より
おきやぶれ々ふハ京侍と劫強を刃の
りーこれかよくするよニタカ扇やの彩ちの
見ぬあはるうらうらとあつくと大さきさうら

アト夕暮方の幕八十女が雲河をまきおぼろごと
かろあやめがなうねあんぞん大さうちのやうま
ごうけ廿九らー不とら燈臺下うじとまらで
まごらんやせんが徳次ハたぶいさうでござりやま
志を年の稀まれものさ三柵大あうが分りまごうら
之役うけけを上は居る内伊勢物役の夏田
た長巻の幼平ハ齒ごころと秋ハ何ぞ之役を
させる元能リが故こい一ニイ中村中村神田の隈居宝田

おやア粘柱云も志めくおぐ**世**紋ハ矢車のやうを
ござりやまねへ**世**何さ何さやア斤うまのトの字を
九ツよせこのさし 他次のト九のやへとくやまの
紋ハ霧の丸 感ハ貴氣と女友をづゝです。功者
の穴あやめこの無藤葉もとんじ上ッの幕のなるが
楽屋をづゝ舟てんさう下をゆ金の中へ遠く
あゝ市が意味線あれも久しいおぐまよホニ
であひやと活は彩く愛く之法ハ法書させて

くれさう志んぬを補く彩まれと頭を後居か
沁やうとさうてこりも忘**世**まハ日本橋の久
世イニエ南ハ丁堀の幼丸さお代衣のあまきくが
牙子の中で木次おせの娘さのお梅あんなに
やき方もいおのゆおきがあるいをそれくら
うの玉森やが紋をいりさう又魚屋がすまぐ
居てたごまきさあの人もきつい錦江をぬき
何のの味一の序ハ新花がえんがらるいどつて

ころころいながら小をとりあけまごがめだり
 あれやふくころふくまはるやどきつひや
 ころころあぶらごころ坂東三本と坂東下赤坂のこころ
 一しく三井三井と穴一のあ
 ちびの素心でまごころが併植はいつてごるさ
 居るもえのきらあまのげなあーのくせぬん
 いろ油布子きぬぬ丸げひぢりめんあまののふんじあまの
 今月がさやとくとくと二とがりなり

今六利うごごごつて女形をうりやめをさくらア
 今お月ごめうモシははああらんがそろよ
 出ーあまろころあまろあまろのほろが古摺中
 ぞをりやーア六糸侍の飛の小紋裁のカーの
 形ど軽比奈あんぞてぬいあまろあまろ
 ぶあまーあまろよりあつちあまろさんやし
 今勿論さ肘はげがそころははははのあま今
 夜は火汐ごころあまろあまろあまろあまろ

三 一がやうなものを林徳らとんまをくられたら
 ようく 四 の子アおれさるるとらび條の扱がふや
 つから 五 焼鍋ナベの中ふきんじとてあやへんさうじ
 三 一とあちとく 三 二をさくおむつあやふひらて
 ちこれる 六 きの腎ちやアあるあーとむらとら
 何のいふて 三 三むらとらさきしとあはくひかる
 三 一を 七 三むらついで天孫山を唱くゆつせ
 ぬ 三 八の身をあまらふくくぬてちや 九 七

中洲ナカヌの瀬流ぢやアあらア上へいぢぢぢ
 いまきよ堀江丁のちいそやちうのをとらとら
 三 一せらのさし人ハちとら 三 二ちやももあぐん
 ちちちや 三 三 トまちとら 三 四 ニみせんをさ
 形わう替てちの方をあこつけおくれはく
 三 一お白ちまきとらとらちち 三 二 三 三
 三 四 トまちとら 三 五 ニみせんをさ 三 六 トまちとら
 起つてちとらとらとらとらとら 三 七 三 八 三 九

三ツノ今ある森は昔より一むらやあひがぬらあると
きんぎくといひたりたしひをあるやうまうをちをいふ
月夜ぎく一は月々さ一は月が夜はけききえを時く
の森もむきふ山麓ひくし二階あり一の平をぶく
いよふ根うらや一なる木もさる吉人の地はゆを
まもそのつづ八十年も根絶をせぬ大破はあよん
ぞけおきあるが若きころあづらんあめよほふと
あふてといふまさういありの急をいふお店よを入

つゆりぢやいふまが義氣を孫店てもあつり
かあづき粉ころごあるまを何さお店役であづき
かへまの餅を煮て死くもすまの朝とまおぢや
た〜ぬぞをてより中れあ二つづやるとお百あつ
かおぢや中世せけんあふおぢやまらういふあつり
はあへあ三そあいよまのあはまらと下んまとい
はくあいあつては大夫の婿あつちやあいあれど
とてまたのあしと下んまあつ又いあし

仲人の母のやどさう八市しぬハイ申持らんよふ計二八
捕川ハだらきよりおそろまは
しつらちんくおきよぬれおる

何ごう今夜ハあきざせるの
ムウ

おのろいであぢふするのろけハせんあう家はおん
とよおていさやアうれト云さぬ捕アイタミホウころやア

あましくい血アおほいけおきましく新刀お
いちりまき指をまるとしてやれこのちトおんを見てついで

ちついでとあひのぶこいりアあまはを怪我ぢやぬへ

起まき指をさころ爪をいぐころ指を切つことお

コレハ指をさころおりおれくエツやアまぬたふとんごま

このごまお捕サ今も六切ぬ指ぢやれどお誰おあつこ

捕八あつこお何ごとふーことその八ちると云ハまぬ

おるあれも肉體の都合もぬらう食くおのこごと

いりさうおさうとささふとらちやつておんごまあ

うまア本條お賞おすりお緒おとけおきををつぎお

八ちおよおふおするおのらコレおハお我とおれがのりハこの古指

中できぬぬのの初八日の湯屋でもはけの口づけの
ざんざんぐーと神祕の評をんまうやアなめとわれが
この時ふいば夫も今さういふおろけのおろけありやア
幣がたぬぬとエ是は屏風の画を見やがれ牡丹ハ
花のうき田舎あるお兼ハ花のうき隠匿あるお蓮ハ花の
君子あり。僧正遍照がなももさすおのふごりお
志田ぬふもく何久ハ夢をむと何きむく。あざむら
きくるおまふが心は遠き蓮の花柳川さうむと

いさうようろおがさうハともめハ涙のさぬ内ハ
うをぬさぬへ情あり。女めをむり女ハおれは天井
んちやアうころト君をさるりて止歯うこちをて奥の君さくハ
又土田彩系といふおえて柳川の彩さく
「まことなき里のおおひと世の人のあはれこの怒情をや
実が何のやこそさうとてハ柳カミを後うまやせう
おまののがらんをりともはじが指を切この今咽ふ
文句のさうり柳識なき里のなまひとさゆ柳イ立
ありのやこそ指切柳ッリヤアなせ柳うらな親くもふ

廿七もまきまじり地が面かいらり等々して中べい金の形代
おてけのちかこを二たんころる後まゝ魚心あれハ水心あり
と申すおまゝきつと令ら更れなくまねがらぬ奴と云
ふちも金を後さるやかこぞへへと祿(園)河(園)と云ふ
さくらさくら トらう下の方(おてけ)かこハ表(まき)まじりてさくらさくら
表(まき)まじりてハ後(おてけ)まじりて大経師の御(おてけ)たまはる
一歳(まき)糸(おてけ)が肌(おてけ)の紙(おてけ)入(おてけ)たることおつらひしておまゝなるね
諸(おてけ)の元(おてけ)らおこのをさる代(おてけ)ありと云(園)時(おてけ)時(おてけ)といふ
よりい降(おてけ)るり(おてけ)を後(おてけ)り(おてけ)やア(おてけ)るその(おてけ)ころ(おてけ)なる(おてけ)も(おてけ)なり

おてけらふ乳(おてけ)ま(おてけ)をぬ(おてけ)せ(おてけ)る(おてけ)も(おてけ)ら(おてけ)ふ(おてけ)何(おてけ)ぞ(おてけ)き(おてけ)せて(おてけ)
おてけらぬ(おてけ)れ(おてけ)く(おてけ)は(おてけ)さん(おてけ)が(おてけ)つ(おてけ)づ(おてけ)て(おてけ)さん(おてけ)ぢ(おてけ)ら(おてけ)の(おてけ)うち
き(おてけ)て(おてけ)君(おてけ)を(おてけ)後(おてけ)ま(おてけ)る(おてけ)人(おてけ)る(おてけ)の(おてけ)糞(おてけ)入(おてけ)強(おてけ)い(おてけ)灰(おてけ)圍(おてけ)の(おてけ)う(おてけ)ら(おてけ)ふ
あつ(おてけ)て(おてけ)さん(おてけ)を(おてけ)後(おてけ)めて(おてけ)や(おてけ)ふ ト(おてけ)申(おてけ)を(おてけ)し(おてけ)き(おてけ)ふ(おてけ)さん(おてけ)の(おてけ) 田(おてけ)の(おてけ)糞(おてけ)とも
お(おてけ)も(おてけ)か(おてけ)う(おてけ)とも(おてけ)も(おてけ)あ(おてけ)つ(おてけ)志(おてけ)の(おてけ)立(おてけ)風(おてけ)さ(おてけ)き(おてけ)つ(おてけ)い(おてけ)り(おてけ)ん(おてけ)な(おてけ)せ
あ(おてけ)つ(おてけ)て(おてけ)さん(おてけ)を(おてけ)ま(おてけ)し(おてけ)て(おてけ)お(おてけ)ま(おてけ)で(おてけ)こ(おてけ)ら(おてけ)つ(おてけ)骨(おてけ)を(おてけ)は(おてけ)して
連(おてけ)て(おてけ)歩(おてけ)く(おてけ)ふ(おてけ)丈(おてけ)の(おてけ)お(おてけ)掃(おてけ)を(おてけ)後(おてけ)て(おてけ)き(おてけ)て(おてけ)あ(おてけ)ア(おてけ)は(おてけ)く(おてけ)く(おてけ)お(おてけ)れ(おてけ)が
姉(おてけ)ご(おてけ)と(おてけ)ら(おてけ)つ(おてけ)て(おてけ)尻(おてけ)を(おてけ)持(おてけ)ち(おてけ)三(おてけ)さん(おてけ)あ(おてけ)つ(おてけ)お(おてけ)その(おてけ)お(おてけ)ま(おてけ)り(おてけ)お(おてけ)ふ

ちつてりんまゝ入箱きつと姉ごよびいそま付てし合の
 一しよとせん傳る町の且船と根巻の親方根
 さし中らうまきあつたはも下さらうや合はゆい
 かねやアまを縁がゆいホ三根との志將ハらんおたこ
 去年おつひを及ぶ縁のほしまで及ぶ縁のおつま
 まは江戸いつて船のがゆいしつちあつていそま
 時阿やまうてお運がやいしあつていそま
 俄はハクの完帳で大ききまのいそま
トてんやーちやうとつとて
ちまひお二ハちうりこまひ

目を目はせうち首尾が又あつた日はこれと歳を
 今おらふ今や影ひが叶ふおらそちのうがづくつて
 手、ちんきトてんやうとそらくとよちうりす
トてんやうとそらくとよちうりす
 るのちうらだつて今足牙契物けいぶつをうらそちを
ちうら
いそま
おつま
おつま
 男のむねの上ちうらとあつて死ちがうのがうらひのうら
 突つつめるのがまの山山をうらういそまをうらう今まで

其の乳を知らずと女と云物ハ油くさくつと云く物
いひりられると服の下く汗がぬぐう今ある
らん者袖ちておの目よ今、面白可笑中く
あつたまきおぶ是と云取中るの空合よ海
堂あ、傍とれても及く中けてぬぐはるを
おを大なるそんをち三三モミ衣を飛んちあんま
りけて六云ぬぞ、後なる女子志やと志おをつうして
下んはちあ、何の志おをつうしてちたやうにがある

おぢかれも男の泣ふあつこう今このやうな物いひ
ちがして見や、髪やのうらさをいつく是らハまぬの
うぬびとちよき身、実利よつきて、身本をこぐ、報を
われ、身本と云まらう、合輪、源、月、すてハ、は、其、洗、校
おア、彫りのを、は、や、脊、中、ハ、鬼、の、首、ぐ、せ、き、が、あ、し
肩の、栞、態、と、敷、半、と、云、字、の、極、合、ふ、せ、う、ら、ま、ト、や、ア
お、ハ、ん、ぬ、い、つ、を、か、ご、中、お、小、紋、よ、は、や、ま、が
き、よ、入、ラ、ギ、ア、小、紋、兵、え、ん、う、ら、類、ご、お、之、命、と、彫、ふ、う

三 夫ねふおま言立て下んさるや千倍おやいあ
モラくおまの身おせせとらとッあし世帯して
下んせそしうらう 猶もあをき子八止く 綿はんご
あし 髪結きてあつと 且形をうして 甚はそ 甚はふ
何りておれも外のこそあまあなれ腕力か
あうらきれあうらき車引をうあうとも 他
穠まかセがふはさ 三 而んがのりう 四 其れしうのよ 三
かあふんかたりあへトあうりしとあまあはあまあ 四 其れ
トあうりとあ入バ二人ハあいのり
おまのま代はせせあこのあはれと二人

申七 穠まきれとんうふら トあうりとあ入バ二人ハあいのり 出
公食うらうあまあまんと 三 花今朝あなまうとれと私
遂むりあをうて流しあまうとあか鳴て親方あ
あへ出やうがあいりそあそあまあがやうとああらう私
りそあ苦累がどあぞ能思あをかりんあ トあは
トあは
申 口あをあてはるハまらうとれびく トあは 申 口あはし
し 仕取がありや トあは 申 口あはし トあは
あへ持て出て伯父の梅新が腹病が快きし

はしこ也也礼塔たか離り又多のほしごまう酒をあるま
たれまて花が文あやましこれ八中ハ物もの珍めづりでござる
うらとそたつとめられましこたツ者被おしこ
は市太刀ハ山やま又十度系りまして疫病除とけ
あると中由なかつ信しんく系りましこと云あるし祝方ハ
也神かみ酒講さけ申まをごうら山と東もや大がいのりハ
だまろくおるハな髪を紋もんでこも付れハ二條國ふたぢょう廣ひろの
刀やいばとふあを神田吉廣かんだきちひろの納太刀のりたてとふまひんごうらま

花はな系けい多たるるぎつついいめんめんごご是こハはははじじぐぐんん斗とののおお礼れとと也や
ト仕り付文唐多々お邪よ廣ひろとふが何なにぞうしてらんらん孫まご
帯と小袖を寄
おれも肩かたて六男むすこが立たぬぬト合あ後ごは是も何なにぞあし
らんぬぬ系けいらんらんああおお系けいらんらん何なにもかもも三さん吹ふくく風かぜを
仕しままししと後ごををころてらんらんををらんらんをを家いえかかアアたたらら
トおこしつとんの中より教をか
お礼れいををいいそそやや
よを合て洞をちかすノ山の麓あるハ
ごよおごよおのの身みハハ四よ思しをを手てままころころううままがが川が村むらややのの去さちちが
仲なつ丁ぢょうのの福ふくままううををままちちああややおおるるままううししももああるるままややア

幾いくもくく二にやの長ながねり舟をやとくゆふ

花はなおさくをよひけり **花**おのゝのんぎうはなををよひ

い **花**こつちやのちむんはなを **花**モウはなよりく丁てい安あり

花きりよりトはなやりのち ト云内馬がけりくちやあけりる
志のあし舟をいそく奴を多衆

花八はちふんべ梅川うめがわ夢ゆめ印いんが由ゆ客かくのまふ丁ていと志し也やとと孫そん

中の為 **花**海うみ福ふくちの木き魚いそをさくやふ浦うらととの上のうへまひより

う麻あささ古ふる橋はしもあれるやアあさハは孫そん **花**け孫そんえを指さるさ

花こるやアあさふや **花**何なにでもよふんすアあ計けい海うみ客かくの

花花はな多たや **花**モウはないふぞ **花**梅うめまき **花**つるを **花**々々 **花**田でん中ちゆうの

方かたは利りがあらうとや **花**ふ孫そんえをきてよりや

花あアあい ト云ちがう孫多 **花**こるや **花**たき **花**客かくの孫そんえが

ちゆう遠とほくおる今いまちうと耳みみへ送おく入いれらば **花**客かくの孫そんえが

けい勢せいこよきハはまうまうこ **花**て **花**希きめ **花**ごう **花**結むすぶれ

ト展ひつらけ **花**こるを **花**今いまの **花**花はな **花**た

がらこみけり **花**こるを **花**今いまの **花**花はな **花**た

るのでらる **花**こるを **花**今いまの **花**花はな **花**た

何なにと **花**こるを **花**今いまの **花**花はな **花**た

何なにと **花**こるを **花**今いまの **花**花はな **花**た

何なにと **花**こるを **花**今いまの **花**花はな **花**た

八尋のりうりしとくにてあるがまふ八形よりた小神を
茅をぬく斤ゆふ火繩のまをさけ換かぎへ下りしする
正ただなるあつ付つ後後なる結物束の令しごうけ後
すく換かぎを返しし返すてはくたまはるをけりかしむを後後
[後]利でも阿ら後令のまをを申してはて一むん子
るのがあるおらが目の筋をととりの骨を
まれもまぬ毛方六の令ッ後とうをアすすり
遠けやがつる泥は坊やららめ後何にいらふの

アアちちびにたま物をばらん遠くくぞまるる也也
ぞまるるかすまもいくぬバトトまつるをこし地師工
け後ぎーを返さやがれといひ月八おれが大方がう
ごまとうりこ後おめをんま後おるのア林こま
おらがお家を十七日のアいり後おらがいりり
ごまるる後ごまされちやア合長あらぬハつる
西たま川三三井協えさいくよまあつてら
何も云合うるのハあらハた方をまごる内八はあらる也

うぬらうわらうしるいぶいぶく 指ゆびの先の百ひゃくの皮で
田十あくとま今ををちやアうーふ仕やアううこま
ト梅川うめがわがそをくつ川がわとナリ おおれが相あひくこをとと
とと人ひとととるも先まへをあらととと おおれが相あひくこをととと
とふするのこ トツきのける梅子うめこの汁 ヤアのお茶あの代しろの
長なが靴ぐつでふちうこれハととと おあうけつけ 国は
張はびびざりまままお茶あのお袋ふくろをあけて何なにてめ用よう
うう六む大だい海かいささアア長なが靴ぐつを中なかの島しまのはたたととと おあうけつけ 国は
ととと梅川うめがわののららああーあ今いまむむを切きるはが

に十じゅうああの今いまがううららうういいむむららううででおおびびををききり
ああささううここゆゆめめのの仕し月つきおおままううををままううああひ
ああささるるんん中ちゆうがが知ちれれここららううアア長なが靴ぐつををののお
ささららひひでで冬ふゆのの内うちままささららううとと身み更さらははささららううた
長靴ぐつ モシ 仙せん石いしををよよここののおお茶あののむむすすここののおお茶あを
採とれれここのの仕し月つきハハととああででここぎぎりりままままおお茶あののおお茶あのの
おおつつままままよよ六む大だい海かいささららううがが梅川うめがわででハハ跡あとぬぬらら
おおううららををままおお張はつつららととおお茶あををまませせくくーーととさ

志林 **あん** ずり くれーくろく 抱がいをれぬへ

家 **そり** やア **海** くら 後 多くら 舟の くら 六 **か**

おめしもう せとん ちるの せとん ちるの せとん ちるの せとん ちるの

おとん せとん ちるの せとん ちるの せとん ちるの せとん ちるの

せとん ちるの せとん ちるの せとん ちるの せとん ちるの

後 **せとん** ちるの せとん ちるの せとん ちるの せとん ちるの

こを せとん ちるの せとん ちるの せとん ちるの せとん ちるの

後 **せとん** ちるの せとん ちるの せとん ちるの せとん ちるの

後 **志** せり **か** その せとん ちるの せとん ちるの

後 **志** せん **く** せん と 納まる ニタ せん ちるの

二日 せり の せとん ちるの せとん ちるの せとん ちるの

と せり の せとん ちるの せとん ちるの せとん ちるの

目 **せり** ちるの せとん ちるの せとん ちるの せとん ちるの

後 **せり** ちるの せとん ちるの せとん ちるの せとん ちるの

大尾

流る待身より待る身と云は互に互に身を驚かすの
むも各々ある名の派甚形うみくそのさる
一ツある比翼の名のさるり牛の角文字を
りごと。ゆがもめぢつさるりの名の花脚ハ矢の
おとく出狂言茶の詰るがくふ多るの仕のさる
西条や多々情の水と云を結んぐる親世水
さるるさるるの京もさるるさるるの橋川

まは柝仕ある定紋のさるの丸で縁をぬるまの
首をせし見方の家亭その尾はむじを帯れ
とふふと縁を結掛旭間云は三枝の礼も
ゆのバとる驚見さるふをさる。驚よ反哺の
さるも何さふさる水雁のたくとふかくさる。ね
すめまさるのさるの世をさるり集るる小冊の
校合筆工さるむすふさるさるり根縁ひ
あさる雑子の志バとげんもさるるもさるる

松文をよき藤つたくく雀すずめのこゝろのこゝろちやららししとと臆おそれれと
 戯あそ場ばとと女め吊ぶ買かいいのこゝろをを三さん光みつのこゝろ雀すずめのこゝろ尻しり尾びよ
 あらまま喰くちちふふ懸いのこゝろはは角かくのこゝろささききすすとと念ねんのこゝろ
 かけかけるる母ははのこゝろハハ子こハハ声こゝろのこゝろ評ひやう判はんをを玄げん肆し徳とく母ぼ
 松しょう毛まうととはは集しゆのこゝろ一いつははううままとと云いつつのこゝろささららりり。

ささららりり
 ささららりりのこゝろ春はる

泥田房述



